



矢口 紗世 (やぐち さよ) 清水小 6年生

作品名:本から勇気を

図 書:アンネ・フランク

私の読んだ本は、「アンネ・フランク」という本です。

アンネ・フランクはユダヤ人です。ただそれだけなのに、迫害されてしまいます。それでもアンネはいつでも希望を失わない、強い女の子でした。

この本は、私が3年生くらいの時に初めて読みました。その時の私にとって、字の多い本はあきてしまうものがほとんどでした。

ところが、この本は違ったのです。アンネの強さに私は熱中し、この時、本のおもしろさが初めて分かるようになったのです。本の世界に引きこまれ、時間を忘れていた私には本を読んでいた2・3時間、またそれ以上かもしれませんが、その何時間が、本当にあつというまだと感じられました。

そして、本で感動することのなかった私が、アンネ・フランクの強さに大感動したことを覚えています。なので、いつでもこの「アンネ・フランク」を読みたくくなります。

アンネは迫害されていても、自分は幸せになれる、という希望を忘れずになやみもありながら一生けん命に生きていました。そんな、どんな時も希望を失わないアンネを尊敬しています。そして、私もそんな人になりたいと思いました。アンネのように、迫害されながら強く生きるのは、すごく難しいでしょう。

それと、アンネたちを支えてくれていたミープとクララも、本当にすごい人だと思います。もしユダヤ人をかくまっていることが見つければ、殺されてしまうのに、毎日食べ物を持ってきてくれるのです。自分の命をかけてまで。オランダ人の支えや、いろんな人のやさしさ、協力、そしてなにより人々の勇気によってアンネは15年間生きていられたのでした。

アンネは、いろいろな人に支えられていました。それは、だれでも同じです。きっとアンネでも、もし支えてくれる人がいなかったら、15年間、こんなにも輝きのある生活をおくることはできなかったでしょう。

人間は、絶対に1人では生きていけないのです。この本が私達につながることは、支えと協力です。この2つは、人間が生活していくには、必ず必要だと私は思うようになりました。

なので私も、人に感謝することを忘れずに生きたいです。